

# オオキンケイギク

オレンジ色の美しい花をつけますが、繁殖力が強く、河原などで他の植物の生育場所を奪います。和名は「大金鶏菊」がもとになっています。

## ■ 原産地

北アメリカ。

## ■ 形態と生態

茎の高さは 40～80cm に達する多年生草本。葉は茎の下の方に集まっており、粗い毛がある。花期は5～8月でオレンジ色の花をつける。

河川敷や海岸、道端などに生育し、刈り取りに対する再生力が強く、繁殖力が旺盛で強健な植物とされる。

## ■ 移入経路と現状

日本へは 1880 年代に観賞用や緑化用に導入された。八重咲きの品種などもつくられ、鉢植えや花壇に利用されたほか、厳しい環境にもよく耐えることから、道路の法面緑化などに盛んに使用された。現在では、野生化したものが全国各地に分布する。

一面に花が咲きそろうと美しく、特定外来生物に指定される前は「オオキンケイギク祭り」が行われていた地域もある。

## ■ 影響

大きな群落をつくることもあり、在来の植物との競合、駆逐が懸念されている。

## ■ 類似種との識別点

類似種のハルシャギクも観賞用として日本に持ち込まれている。ハルシャギクは花びらの付け根が紫褐色で、葉や茎に毛が生えていない点で識別できる。

## ■ 対策

生育の拡大を防ぐために、抜き取りや種子ができる前の刈り取りによる駆除が行われている。種子が土の中で何年も生き残るため、継続的な対策が必要である。

キク目キク科

学名：*Coreopsis lanceolata*



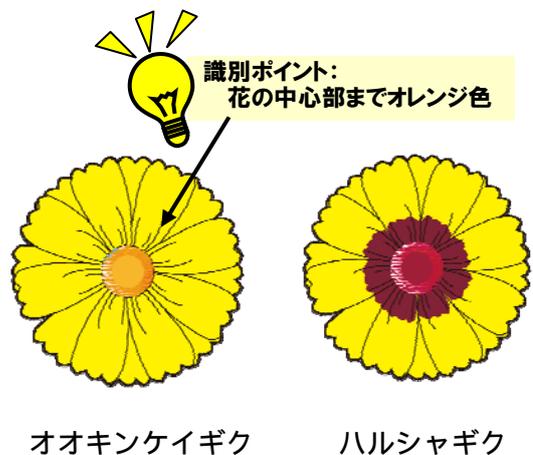
## ■ 選定状況



## ■ 県内の確認状況



(写真提供：大川智史氏)



オオキンケイギク

ハルシャギク

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

植物